



# 熊事研会報

第149号

熊本県学校事務研究協議会  
発行人 会長 宮崎 文子  
編集代表 研究部長 山本 晋也

～目次～

- この1年を振り返って（会長挨拶）
- 全事研愛媛大会長崎支部発表報告
- あとがき
- 退職者よりメッセージ
- 研究部で学んだこと

## この1年を振り返って

熊本県学校事務研究協議会 会長 宮崎 文子

今年度も、振り返ると「with コロナ」の時代を生き抜く私たちにとっては、困難な1年でした。7月の総会及び研究会につきましては、総会は書面表決とし、研究大会はせめて一部参集でと計画しておりましたが、新型コロナウイルス感染症急拡大の状況を考慮し、大会直前でライブ配信のみの開催を決断しました。学校人事課の行政説明も会場へお越しいただく予定でしたが、音声入りパワーポイントでの説明となりました。説明にあった「求められる学校事務職員像」とは、自ら考えてチャレンジし、積極的に協働しながら高い意識をもって実践する学校事務職員であり、学校のマネジメント機能を強化するためには学校事務職員の働きが必要、日頃のルーティーン業務だけでなく、高い意識を持って業務に取り組んでほしいという内容がありました。現在のすべての学校において求められていることだと思います。今年度は研究部長が6年ぶりに交代し、若い研究部長に熊事研の研究をリードしてもらっています。2月大会については、熊事研の研究テーマである「子どもたちの笑顔を未来につなぐ学校の協創～社会に開かれた教育課程を目指して～」についてさらに深く学んでいくために、愛知教育大学 教育学部 教育支援専門職養成課程 教育ガバナンス講座 教授 風岡 治 様を講師に招き「社会に開かれた教育課程を学校事務～カリキュラム・マネジメントを担う事務職員の役割と考える～」の演題で御講演いただきました。また、田中 誠 様（松橋中学校校長）、宮本 隆宏 様（佐世保市立浅子小中学校事務主任）、神尾 浩輔 副会長（氷川町及び八代市中学校組合立氷川中学校主任事務長）とそれぞれ立場の違う3名の方をパネリストとして迎え、風岡様を助言者にパネルディスカッションを行いました。会場へ参集可能とした義務制経験3年未満の方は26名が参集いただき、会場での研究大会を体感してもらいました。このことは役員にとっても、その場で反応をいただけるのでライブ配信のみより手ごたえを感じながら運営することができました。配信が一部乱れましたことにつきましては深くお詫び申し上げます。リハーサルを行い、万全を期して臨んでおりましたが、予期せぬ機器トラブルに見舞われました。これまで、臨場感のある配信を心がけてまいりましたが、機器の機能の限界を感じています。より高度な配信を行うためにはかなりの予算、そして人員が必要となることが見込まれます。新型コロナウイルス感染症との向き合い方も変化してきましたので、6月の大会については参集で行いたいと思っています。この3年間、400人あまりが参集する大会の運営について、役員のほとんどが未経験ですが、理事会・研究部・事務局の役員が一丸となってしっかり準備していきたいと思っています。また、理事会にお諮りしているところですが、今年度は、九州地区学校事務研究会連絡協議会の立ち上げの準備をしてまいりました。九州各県の事務の研究団体

のネットワークはありましたが組織は存在していませんでした。先日の研究大会でパネリストを引き受けてくださった宮本様は、令和3年度から若手育成のための研究会を企画されています。その企画を九州全体でバックアップすること、また、令和8年度に予定されている全事研佐賀大会の基盤作りにも役立つ組織となります。各県、学校事務を取り巻く状況には同じ内容もあれば、異なる部分もあります。情報の共有することはとても重要です。平成27年度の全事研熊本大会の際、九州各県に分科会をもっていただきましたので、佐賀大会ではその御恩返しのために、いち早く実行委員会を立ち上げ、研究に取り組んでもらっています。福永実行委員長より2月大会で全事研の第9次研究中期計画をおさらいしながら、第10次研究中期計画の方向性について解説してもらいました。全事研からの年次別課題「学びの機会の保障」についてこれから研究を深めていきます。実行委員会は現在6名です。今後、アンケートの実施等があるかと思いますが実行委員会への御協力をお願いいたします。いろいろな実践や御意見を実行委員会までお聞かせください。実行委員のメンバーも募集中です。お待ちしております。with コロナの状況のなか、6月と2月に研究大会を開催することができ、運営側の役員自身も多くの学びがあり、会員の皆様に学びの場を提供できたことを嬉しく思っています。アンケートには役員へのねぎらいの言葉や、感想・御意見をお寄せいただきありがとうございました。それぞれが自分の職務、学校のニーズについて考えていただいていることがわかりました。今後ともいろいろな御意見をお寄せください。熊事研そして学校事務のあるべき姿を探求し、皆で課題解決に向け努力していきたいと思います。すべてのこどもたちの笑顔のためにも頑張りましょう。1年間ありがとうございました。

## 退職者よりメッセージ

今年度末に御退職される学校事務職員のうち2名の方より、熊事研会員の皆様へメッセージをいただきました。御退職される先輩方が築いてこられた熊事研が、これから更に発展していくよう、会員の皆様方と一緒に作りあげていけたらと思います。メッセージをいただき、ありがとうございました。

子どもの声が聞こえる職場っていいよね。そんな軽い気持ちで学校事務の仕事に就きました。初任地は天草最南端の牛深小学校で4年間。2校目からは一気に北上して福岡との県境、鹿北町立岳間小学校。それからは山鹿市内の学校を5校の計7校で40年間。かわいい小学生の声に囲まれ、楽しく過ごすことができました。私の希望は叶えられたってことになります。めでたし、めでたし。

と、さすがに現実はその甘いことばかりではなかったです。異動のたびに周りから「行く先行く先恵まれてるね」、と言われるほど児童、保護者、同僚も申し分なく幸せに過ごしていた私に、試練が訪れました。初めての中学校勤務が大規模校でおまけに事務センター長を任命されたのです。私に務まるのだろうかという不安。どんなことをすればいいのという焦り。もしかして人生最大のピンチだったかもしれません。しかし、案ずるより、でした。スタッフに恵まれ7年間無事？に勤め上げることができました。

そんな私に悔いがあるとすれば、「感謝」の気持ちを今まで出会ったすべての方に直接伝えられないこと。そこで、この場を借りてお礼の言葉を述べさせていただきます。ただひとつ。 「本当にありがとうございました。」 山鹿市立山鹿中学校 草野 富士子

初任地は生徒数 50 人余りの離島の中学校でした。山を彩る山桜に、響き渡るウグイスの声。船上から見る夜空は、それはそれは素晴らしかったです。

熊事研には、熊本市事務研の総務をしていた時に 1 年間だけ研究部員として所属しました。当時の熊本市事務研は、「事務職員は・・・つかさどる」の文言での「熊本市学校財務取扱要綱」の作成に尽力し、総務課長名での施行にこぎつけています。その経過が第 30 回熊事研大会で発表され、その時の記録係でした。

さて、話はがらりとかわります。私が時代の流れを一番感じているものは、日本人学校に赴任した同僚への通信手段です。

1 人目は昭和の終わりに中南米へ。通信手段はエアメールです。メールのふりではありません(笑)、航空便です。2 人目は平成の後半にアジアへ。通信手段はメールと郵便局のビジネスパック、急ぎの時は国際電話でした。3 人目は平成から令和にかけて中近東へ。今度はメールに加え、ラインと国際電話でした。きっとそう遠くない未来はメタバース、いやもっと何か別のもの?なんて考えると楽しいですね。

☆最後に☆どんなに立派なシステムを作っても、内容をよく理解しないまま運用すると、いずれ支障が出てきます。それを生かすか生かせないかは、内容を理解した上で判断し、臨機応変ができる現場の人間次第です。

心身の健康に気を付けて、年齢が高い人は経験値をもって、若い人たちはその柔軟さをもって、お互いにリスペクトして共に働きましょう。最後は「人」です。

熊本市立力合西小学校 大石 靖子



## 永年のお勤めお疲れ様でした

### 全国学校事務研究大会

### 愛媛大会 第一分科会 長崎県支部のパネリストとして参加してみ

宇土市立鶴城中学校 平野 哲也

全事研愛媛大会のパネリストの依頼が宮崎会長からありましたのが令和 4 年 10 月 19 日でした。予定していたグループ討議ができなくなり、急遽パネルディスカッションに切り替えての対応であることと、内容は「ランドデザインと研修計画」ということで、熊本県と鹿児島県と宮崎県に頼みたいとのことでした。「頼まれごとは、試されごと」=自分の世界を広げるチャンスだと思っていつも頼まれごとに「Yes」としか返答しない私は、何も考えずに引き受けました。

分科会の打合せも Zoom、分科会当日も Zoom ということで、長崎県にも愛媛県にも行くことのない全事研愛媛大会でしたが、貴重な体験をさせていただいたので、紙面にて御報告させていただきます。

まずは、メールで送っていただいた分科会レポートを読ませていただきました。第 1 分科会長崎支部は「2022 長崎 学校事務の変～様々な資源と学校をつなぐ「Hub」となる学校事務職員

～」というテーマで分科会を設定されていました。全事研愛媛大会のテーマ「次世代の学校づくりを推進するヒューマンリソース」と、目的である「そのマネジメントを担う事務職員や共同学校事務室の姿を追求する」に迫るために、大会テーマの考え方を整理・確認されていました。「ヒューマンリソース」＝「人的資源」において、人を「単なる労働力」という視点ではなく、「重要な資源」として捉える考え方のもと研究を進められていました。「人という資源」は、他の資源を動かす原動力であり、「育てることができる資源」と考え、他の資源よりも扱いが難しいが、無限の可能性を秘めた資源である、とまとめられています。また、「人材四態」～人材をレベル1からレベル4まで分ける考え方（レベル1：「人罪」他の人の足を引っ張るような存在。レベル2：「人在」ただ存在しているだけ。レベル3：「人材」普通の人材。付加価値を生み出しうる存在。レベル4「人財」：自分の頭で考え多くの価値を生み出す存在）について、長崎県の「学校事務職員」一人一人が、人財（学校にとって重要な「Hub」となり、様々な資源に付加価値を付け、つなぎ、動かす）である、という考えが、長崎県のグランドデザインの研究指針へとつながっていて、とても興味深い研究でした。

長崎県のグランドデザインにおいて、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、学校事務職員の役割を明確化し、ヒューマンリソースマネジメント達成のための9つの身に付けるべき資質能力が掲げてあります。その9つは、①コミュニケーション能力②学習継続能力③課題解決力④専門構築力⑤政策形成力⑥情報活用力⑦人材開発育成力⑧仲介調整力⑨変化適応力ですが、この9つの能力はキャリアに関係なく、重要な能力でありその能力により目標（ミッション）達成につながるということについて、簡潔でとてもわかりやすくまとめてあります。

長崎県においても、熊本県、宮崎県、鹿児島県のパネリストも同様の意見でしたが、研究組織で研究し作成したグランドデザインが県下に浸透し、活用されることは難しいということでした。提案者からそれぞれの県において工夫されていることがあればお聞かせください、ということでしたので、「熊本県では事務必携を作成しており、その一部として熊本版グランドデザインとその研究成果を掲載している。」と熊本県の取組を紹介しました。

討議の柱2については研修制度についてでした。長崎県においては、県教委が主導して実施する「体系的研修」と、県教委が支援し、旧教育事務所を単位とする各地区の事務研究会が主体となり実施する「特別研修」としての「自主研修」があるそうです。打合せの段階では熊本県の研修制度について説明する予定でしたが、それだと各県の説明会になってしまうので、10年後の学校事務職員に必要な能力についてのディスカッションをすることになりました。私が考える10年後は、学校における処理のすべてはAIに取って代わりICTによる授業が展開され、学校にかかわるヒトがユーザーとなり、児童生徒、保護者、外部機関との連携はSNSにとって変わるかも知れないことを踏まえ、学校におけるICTコミュニティの情報の管理、活性化、健全化を統括するコミュニティマネジメントが必要になるのではないかと考えました。そして、コミュニティマネジメントにおいて、学校事務職員がすでに機能として果たしていることを10年後の学校において具体的な取組として5つあげて説明をしました。

今回、全事研愛媛大会 長崎支部の分科会に参加して、現在、熊事研研究部で研究を継続している「熊本版グランドデザイン Ver.2」について、地区研と一緒に研究を推進していかないと、グランドデザインで提案してあるミッションの達成はあり得ないと感じました。グランドデザインに掲げられているビジョン達成のための5つの機能を熊本県下の学校事務職員がジブンゴト化して考え、目の前の子どもたちの笑顔のためになにをしなければいけないか、どういう機能

を果たさなければいけないかをあらためて考えることができる機会となりました。

全事研のパネリストを依頼されて、今までインプットされてきたデータ（情報・考え）を討議の柱に沿って、Zoom でディスカッションすることは、会場でのパネルディスカッションと違い、自分の意見をどう視聴者は捉えているのか不安でした。しかしながら、自分のデータ（情報・考え）をアウトプットしディスカッションすることで勉強することができました。

自分の中のデータ（情報・考え）をアウトプットする機会があれば、いろんなところで話すということは、聞いている人のためではなく、自分のためになります。皆さんもディスカッションしてみませんか。

## 研究部で学んだこと

2月28日（火）に今年度最後の研究部会を行いました。今年度は今までで最年少の研究部となり、研究部員自身も分からないことが多い中でのスタートでしたが、全員で考え、知恵を絞りながら研究に取り組んできました。そこで、研究部員に、今年度1年間で学んだことを尋ねてみました。今回はキャリアのみ掲載しています。

### 企画職員

研究大会等の企画・運営を通して他の市町村の事務職員や講師の方等につながることができ、いろいろな考え方に触れることができ、仕事に対する姿勢が変わったと思う。

### 企画職員

歴代最年少の研究部ということで、若いパワーの結集で1年間を乗り越えたことは大きな価値のある経験になりました。楽しかったです！

### 企画職員

研究部5年目が終わろうとしています、勉強になることばかりです。県内、県外の方とのつながりは日頃の業務の指針になっています。

### 企画職員

研究部に居ることで、「なんのために仕事をしているのか」の意識を持ち続けながら仕事ができるようになりました！また他地域の仲間と交流できるので、いろいろな地域の話も聞けて、刺激になりました！

### 調整職員

今後、学校事務職員が目指していくべき姿、方向性がわかってきました

### 調整職員

研究部での活動を通して、自分の仕事への意識や取組みを見直すことができました。

### 調整職員

他の研究部員の先生方の実践や考えを知る機会が沢山あり、自分に足りないものは何か気づく良い機会になった。子どものためにできることは何か、常に考える姿勢が大切だと学んだ。

### 調整職員

時間の使い方や効率よく仕事をする工夫、他の学校の実践していることや社会に関われた教育を行っていくうえで私たちができること

### 調整職員

事務の仕事がどのようにして子どもたちの教育へとつながるかということ

### 調整職員

日頃の業務で活かせる工夫や仕事に対する意識のもちかた

### 調整職員

熊事研でほかの事務職員と意見交換をすることの大切さを学びました。

### 調整職員

日々の仕事に対する考え方や、これからの事務職員としての在り方について学ぶことができ、多くの事務職員の方とつながることができた。

### 調整職員

「つながることの大切さ」「心理的安全性」

### 調整職員

企画・連絡・調整のノウハウを肌で感じることができた。  
また、教員・事務それぞれのカリキュラム・マネジメントを擦り合わせていく重要性を学んだ。

### 調整職員

研究の方法、大会の運営、企画

### 調整職員

大会運営、必携作成など貴重な経験と、仕事への取り組み方について学ばせていただきました。

### 調整職員

学校事務職員として教育にどう携わっていくべきなのか考えることができました。新しい知識も増え、学びの多い1年間でした。

## あしがき

今年度も、会員の皆様の御協力により6回の会報（第144号～第149号）を発行することができました。原稿依頼の際には快くお引き受けいただき、関係の皆様には厚く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症拡大から3年が経ち、「with コロナ」の社会となった今年度。学校現場においても新型コロナウイルス感染症と共存することを前提とした対応が求められました。会員の皆様におかれましても、日々様々な工夫をされながら業務にあたられていることかと思

います。多くの方々の創意工夫により第46回熊本県学校事務研究大会も参集とライブ配信のハイブリッド型にて開催することができました。よりよい研究大会を開催できるよう、私たちも一丸となって取り組んでおります。来年こそは参集型で大会を開催し、皆様にお会いできる日がくることを楽しみにしております。

熊本県学校事務研究協議会 研究部 情報調査班 会報担当

